



国際協力

駒ヶ根から世界へ！ 訓練所開設40周年！

～駒ヶ根青年海外協力隊訓練所開設40周年記念式典を開催～

去る10月26日(土)、駒ヶ根青年海外協力隊訓練所の開設40周年記念式典・交流会を開催しました。

式典には、日頃からご支援いただいている地域の皆さま約130名をお迎えし、訓練生と共に40年を振り返りつつ節目を祝いました。



▲小林局長による式辞

式典開始にあたり台風19号の犠牲となられた方々と物故隊員に黙祷をささげました。式辞として青年海外協力隊事務局の小林広幸局長から、これまで訓練所を支援していただいた地元の関係者の皆様に感謝の意を伝えつつ、今後も変わらぬ支援と協力をお願いし、引き続き国際貢献と共に地域貢献にも取り組んでいくことを誓いました。

また、ご来賓を代表し宮下一郎内閣府副大臣や阿部守一長野県知事、杉本幸治駒ヶ根市長、高坂保駒ヶ根協力隊を育てる会名誉会長からご祝辞いただき、訓練所の一層の発展と地域で果たす役割について大きな期待が述べられました。

続いて、訓練所開設当初から協力いただいている所外活動先と青年海外協力隊長野県OB会に感謝状を授与。さらに「訓練所40年の歩み」を振り返るビデオを上映しました。最後に地元の隊員OBを代表しセネガルで活動した城村英志さんが「感謝と誓いの言葉」を読み上げ、協力隊事業に対

設40周年記念式典



▲城村さんによる感謝と誓いの言葉

する熱い思いと帰国後の活躍を次の世代に繋げていきたいという力強い言葉が述べられ、会場を感動に包みました。

式典後の交流会では、翌日の「みなこいワールド・フェスタ」に参加する3ヶ国(ニカラグア、ベネズエラ、マラウイ)の大使と7名の歴代訓練所長にも駆けつけていただき、お祝いと共に地元との一層の関係構築に期待が述べられました。

最後は、駒ヶ根訓練所を巣立った4ヶ国(セネガル、ネパール、ボリビア、フィジー)の隊員達からの心温まるお祝いのビデオメッセージの紹介と、青年海外協力隊の隊歌「若い力のうた」の合唱で締めくくり、参加者一同で40年を祝うことが出来ました。

この他に、多くの方から温かい祝電をいただきました。駒ヶ根訓練所では、これからも地域の皆さまとともに、世界に貢献するJICA海外協力隊を全力でサポートし、信頼で世界をつないでいきます。



▲ニカラグア、ベネズエラ、マラウイの各国大使



▲7名の歴代の訓練所長さんも駆けつけてくださいました



▲交流会でのネパールダンス

祝いのビデオメッセージの紹介と、青年海外協力隊の隊歌「若い力のうた」の合唱で締めくくり、参加者一同で40年を祝うことが出来ました。

今年も開催！ 秋の風物詩「みなこいワールドフェスタ」

10月19日から27日まで、宮田村、中川村、駒ヶ根市、飯島町の「みなこい」地域で開催された「みなこいワールドフェスタ」では、地球の料理教室や映画上映会など様々なイベントが行われました。

最終日に駒ヶ根駅前で開催された「国際広場」は、秋晴れの中、多くの来場者で賑わいました。今年は駒ヶ根訓練所40周年記念として、訓練所のスタッフ、語学講師が一丸となりブースを出展しました。

まずは、訓練所40年の歴史を市民の皆さんに知ってもらうためにクイズを出題。悩みながらも正解し、訓練所のこれまでの歩みを知っていただくことができました。

ブースの中では、子どもたちがSDGsロゴマークの缶バッジづくりに熱中。絵を描いて、形を整え、機械に入れ



▲缶バッジ作りを楽しむ子どもたち

て「ガチン！」と押せば完成。缶バッジをつけて、みなこい地域から世界へSDGsを発信していきました。

隣には毎年大人気の訓練所の語学講師による語

学体験。初めて聞く言葉に驚きながらも、語学講師から楽しく丁寧に教わることで、最後には流暢に話すことができました。



▲大盛況の語学体験

いていました。アフリカ出身の語学講師によるアフリカンドラム体験です。皆さんノリノリで音楽を通じた異文化体験を楽しんでいただきました。

「知って、見て、やってみる！」をテーマに、駒ヶ根訓練所ならではのブース出展をしました。ご来場いただいた皆さま、ありがとうございました。



▲アフリカンドラム体験

台風災害ボランティアとして活動してきました！

11月17日(日)、2019年度2次隊訓練生とスタッフの有志43名で、台風19号で甚大な被害を受けた長野市穂保地区へボランティアに行ってきました。現地ではたくさんの住宅やリンゴ畑が被害を受けてい



て、その光景を見た私達は言葉を失いました。

支援活動では、4チームに分かれ、それぞれお宅での泥か

きや洗浄作業を行いました。作業の合間には、被害を受けたご家庭の方と色々なお話をさせていただき、発災当時のことや現状を知ることが出来ました。

現地では青年海外協力隊長長野県OB会や、青年海外協力協会(JOCA)の皆様など協力隊関係者も多く支援活動に従事しており、大変な状況でも笑顔で活動している先輩方・スタッフの方々を見たとき、とても

頼もしく思いました。

今回のボランティア活動は、私たち訓練生が企画しました。被災地域は、訓練所がある駒ヶ根市から物理的に距離が遠く、日曜の休みを使っていくには厳しい条件でしたが、やはり同じ長野県内で訓練を受けていることもご縁だと考え、訓練最後の日曜日に実施することを計画しました。

私たちが支援できたことは大きくありませんが、引き続き支援すること、そして今回得た経験や学びを派遣される国へ活かすことで、社会により大きな良い効果を与えて行ければと思います。



2019年2次隊ポリビア派遣(環境教育)

庄司 健

協力活動（地域実践）は、地域での協力活動の実践を通じて派遣後の活動に必要なスキルを養う訓練です。



掲示物：派遣国を示した地図

駒ヶ根訓練所の一番近くにある赤穂南小学校では、学校の一角に「世界情報センター」というコーナーを設け、少しでも多くの子供たちが世界の国々に興味を持ってもらえるよう、学校をあげて取り組んでいます。訓練生たちは、こうした学校の取り組みをサポートするべく、掲示班、ゲーム班、教材班、図書班の4班に分かれ作業を行いました。まず掲示班は、派遣国の国旗や食べ物などの写真を掲示、これらの写真には裏をめくると「国名」や「食べ物の名前」を知ることができる、という工夫を凝らし、先輩隊員が作成した掲示物をより魅力的なものにしました。次にゲーム班は「しんけいすいじゃく」が

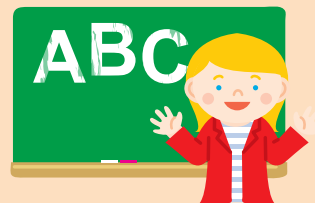
できる「国図鑑カード」、アフリカ起源のボードゲーム「マンカラカラハ」を制作、「世界情報センター」にこれらを設置しました。また、教材班は、先生方へ国際理解教育に必要な教材の内容に関するアンケートを実施し、その結果を受けて、国際理解教育に役に立つ教材を紹介する案内文書を作成しました。加えて、図書班は図書室の資料の中で、世界の国々への理解を深めることができる図書を整理し、「世界の国の本紹介」のコーナーを作りました。これらの活動を通じて候補生たちは、配属先に入り込み、その実情に適した活動を実施する術を身につけました。候補者はそれぞれの任国の活動で、地域実践で得たこれらの経験、能力を活かしていきます。



掲示物：世界の国旗

シリーズ

語学訓練こぼれ話



◆ テクニカルクラス

訓練所では、現地で生活・活動をするために基礎的な文法の学習、会話を中心とした語学授業が行われます。しかしその中で、普段授業を受ける訓練生が発表者となって行う授業が「テクニカルクラス」です。訓練生自身がそれぞれの要請内容をもとに、派遣先での活動で伝えたい内容や対象者を想定して、他の訓練生の前で発表や授業を行います。



▲小学校での授業を想定

このテクニカルクラスの時間は学習言語によって異なり、英語の場合は訓練初期から開始し、他の言語より多い1人5～6回の発表の機会が与えられます。英語以外の言語の場合、はじめは簡単な会話が精一杯ですが、訓練も中盤を過ぎると少しずつ自分の言いたいことが表現できるようになってきます。その段階で、だいたい1人につき1

～2回のテクニカルクラスを行います。初めて学ぶ言語で約1時間の発表を行うのは大変なこと



▲テニスを教える様子

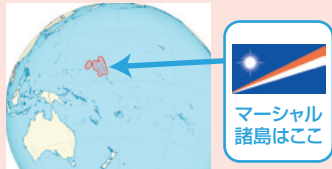
ですが、訓練生は実際現地で行うであろう発表と、その準備をすることで、専門用語や表現方法を学び、活動の中でそれらを使用することができる「生きた学び」が得られます。スポーツ系の職種でも、しっかりと理論を説明しなければいけないため気が抜けません。語学的な学びも多いですが、自分の



▲ホワイトボードを利用して説明

現在の實力を知ることができ、モチベーションの向上につながる貴重な時間となっています。

（鈴木 聖哉）



こんにちは。私が活動するマーシャル第二の都市イバイは、0.36㎦に1万人以上が暮らす、人口密度が非常に高い小さな島です。人々はみな優しく、島の周りにはどこまでも美しい海が広がっています。戦時中に日本が統治していた歴史もあり、デンキ(電気)、チャチミ(刺身)など、数多くの日本語がマーシャル語として現在も使われています。

主食はお皿いっぱいのご飯、おかずに鶏肉またはツナ缶、スパム*などの缶詰を食べ、砂糖たっぷりのジュースを飲む…

そう、ここは、世界的に見ても糖尿病罹患率の高い島なのです。家がひしめき合う土地に緑は少なく、やせた土地に強い潮風で作物



小学校で定期的に食育を実施しています



教会でのクッキングデモの様子

も育ちにくいいため、ほとんどの食を輸入に頼っています。そんなイバイで、初代栄養士として島唯一の病院に派遣され、糖尿病の予防・改善に取り組んでいます。

最近、病院食の改善や小学校での食育、地元NGOと連携した地域でのクッキングデモなどを行っています。島で会う子どもたちは、「砂糖の摂りすぎは良くないんだよね」、地域の方々も、「デモの料理を作ったら家族が喜んでくれたよ」と嬉しい言葉をかけてくれます。

すべてがチャレンジのこの島で、最後の最後まで任期を全うしたいと思います。



クリスマスには教会にて地域の人と練習したビートダンスを披露

※ソーセージの材料を缶詰にしたもの

帰国したJICAボランティアの方

2年間の活動
お疲れ様でした!!



2017年度2次隊

おおたき さきみ

大滝 咲美さん (岡谷市)

- 派遣国: ソロモン
- 職種: 作業療法士



小学校での障がいに関する啓発活動

私は、2019年10月2日に任期満了し日本に帰国しました。私はソロモンの首都ホニアラの市役所CBR (Community Based Rehabilitation、地域に基づくリハビリテーション) 課で活動していました。活動内容は対象者さん宅への訪問リハビリサービスの提供や車椅子、福祉用具などの支給・配達、発達検診、啓発活動、スタッフへの技術移転、大学講師、障がい者イベントの企画運営など、障がい者支援全般を担当しました。日本ではリハビリ職に加え、社会福祉士や保健師、ケアマネジャーなど各職種で役割分担し協業していたことも、人的資源や知識、情報、制度などが十分でないソロ

モンでは、一つの職種が包括して様々な部分を担当せざるを得ませんでした。文化や価値観など違う国で、自分の専門外のことも行わなければならないという難しさを感じつつ、日々チャレンジという気持ちで取り組んでいま



訪問リハビリでのご家族指導



CBR課、国立病院リハビリ課のスタッフと

門外のことも行わなければならないという難しさを感じつつ、日々チャレンジという気持ちで取り組んでいました。日本では、そのような難しさに直面することもなかったもので、この2年間は自分にとって本当に貴重な経験であり、宝物になりました。

2020年度2次隊(4名)

長野県出身新JICA海外協力隊

行ってきます!!

青年海外協力隊



やなぎさわ
柳沢 あゆみ さん(御代田町) 職 種: 栄養士
派遣国: フィジー



学生の頃から国際協力に関心があり、実務経験を積んで参加します。フィジーの首都で、肥満対策を中心に生活習慣病の予防に携わります。今回の派遣をキャリアアップにつなげていきたいです。



なかもら はるひ
中村 春日 さん(下諏訪町) 職 種: PCインストラクター
派遣国: ベリーズ



コロナザルという、メキシコとの国境の町の小学校で、子ども達にWordやPower Pointを中心としたパソコンの授業を行います。異なる言語や文化の中で、出来る限り沢山のことを学んで帰国したいと思っています。



すぎた じゅんじ
杉田 純治 さん(伊那市) 職 種: 小学校教育
派遣国: ガボン



中部アフリカの赤道直下の国ガボンの首都リーブルビルに行ってきます。算数教育の支援に携わる予定です。子どもたちが足し算や掛け算が好きになるような工夫が、ガボンの先生方と一緒にできたらと考えています。



きゅうま ひでき
久間 秀樹 さん(上田市) 職 種: コンピュータ技術
派遣国: マレーシア



マレーシア、マラッカ州の職業訓練校でIT技術を指導する講師達に助言をしたり、企業家達と会って学生の受け入れ先を探したりします。訓練中に培った歌唱力を武器に、現地に溶け込んでいきたいと思っています。

シニア海外協力隊

地域おこし協力隊として ウガンダと立科町の橋渡し

東京オリンピック・
パラリンピックで



平成29年度1次隊
すとう かな
須藤 佳奈 さん(宮城県)

- 派遣国: ウガンダ共和国
- 職 種: 小学校教育



▲私の配属校の子どもたちとの1枚。
写真が大好きで撮っていると近くに寄ってきます。

Gyebale ko(こんにちは)! 帰国から半年が経ち、現在は長野県立科町で地域おこし協力隊として活動しています。立科町は、2020年東京オリンピック・パラリンピックに出場するウガンダ共和国の陸上競技、中長距離種目のホストタウンに登録されています。ウガンダは、その自然の美しさから「アフリカの真珠」とも呼ばれ

ていますが、私は青年海外協力隊として2年間過ごした経験から、ウガンダ人の心も「真珠」だと感じました。どんなことがあっても明るく前向きに暮らし、異国から来た私をまるで家族のように受け入れてくれ、自分が十分に持っていない時でさえ周りに分け与えるその姿に、大きな感銘を受けました。

まずは、町の皆さまがウガンダを身近に感じてもらえるようにウガンダの情報を記した「ケイタボン(ありがとう)通信」を、町役場や小学校、中学校などに掲示させていただいています。ウガンダの選手が来たときに、お互いに温かい気持ちで交流ができるように、ウガンダと立科町をつなぐ活動に取り組んでいます。



▲ケイタボン通信

ホストタウンプログラム

写真展「My Pearl of Africa —私が見つけたアフリカの真珠—」

期日: 2020年1月20日(月)~2月2日(日)

場所: 立科町 ふるさと交流館

協力: 蓼科写真クラブ

青年海外協力隊として2年間撮りためた写真を展示し、皆さまにウガンダを身近に感じていただきたくと同時に、日常の中に広がる小さな幸せを見つけられるお手伝いをしていきたいと思っています。

JICA 海外協力隊 × 地域の今、そして未来 ～ JICA 海外協力隊春募集説明会～

JICA海外協力隊2020年春募集期間は2月20日(木)～3月30日(月)

【開催日程】

- 上田市:サントミュージゼ 2020年2月1日(土) 14:00～16:20
- 松本市:信毎メディアガーデン 2020年2月8日(土) 14:00～16:20
- 飯田市:エスバード 2020年2月16日(日) 16:00～17:00
- 長野市:長野市芸術館 2020年3月7日(土) 13:00～17:30
- 駒ヶ根市:駒ヶ根訓練所 2020年3月8日(日) 10:40～16:00

※入場無料・駒ヶ根市のみ予約が必要

【テーマ】

- 上田市:「台風19号被災地復興支援×JICA海外協力隊」
- 松本市:「TOKYO2020×JICA海外協力隊」
- 飯田市:「SDGs×JICA海外協力隊」
- 長野市:「質の高い教育をみんなに
～JICA海外協力隊で国際協力の最前線へ!～」
- 駒ヶ根市:「訓練所での派遣前訓練1日体験プログラム」

駒ヶ根訓練所一日体験プログラム開催!

内容:青年海外協力隊OGで、2017年雑誌Forbes Japanの世界で闘う「日本の女性」55に選ばれたNPO法人AfriMedico代表理事の町井恵理さんをお迎えし、ご自身の社会起業家としての半生を語ってまいります。

また、訓練所ならではの訓練生との交流ランチ、応募に関する相談等を実施します!

日時:2020年3月8日(日)10:40～16:00

場所:駒ヶ根青年海外協力隊訓練所

プログラム:AfriMedico代表理事・町井恵理氏基調講演、ランチ交流会、JICA海外協力隊の概要説明、語学体験講座、選択講座(応募制度、現職参加制度、模擬面接、応募者調書添削、施設見学、OVIによる体験談)

一日体験プログラムは、JICA海外協力隊への参加を考えられている方が対象ですが、将来国際協力に関する仕事につきたい方や、JICA海外協力隊を知りたいという方も参加可能です。国際協力への道がより身近に感じられる一日になるはずですよ。

参加費:500円(ランチ代)／定員:50名

申込締切:2020年2月14日(金)正午まで

訓練所に駐車場有

駒ヶ根バスターミナル、駒ヶ根インター、駒ヶ根駅より無料送迎あり(要申込)

Tel:0265-82-6151

JICA駒ヶ根募集説明会
詳細はこちら

E-mail:jicakjv-shiminsanka@jica.go.jp



詳しい申込方法は、JICA駒ヶ根HPをご覧ください。



いつか世界を変える力になる。

青年海外協力隊
シニア海外協力隊

内容:各会場では、それぞれのテーマに関して、現在日本や世界で活躍している元協力隊員の話聞き、ボランティア活動からつながる世界・可能性をご紹介します。

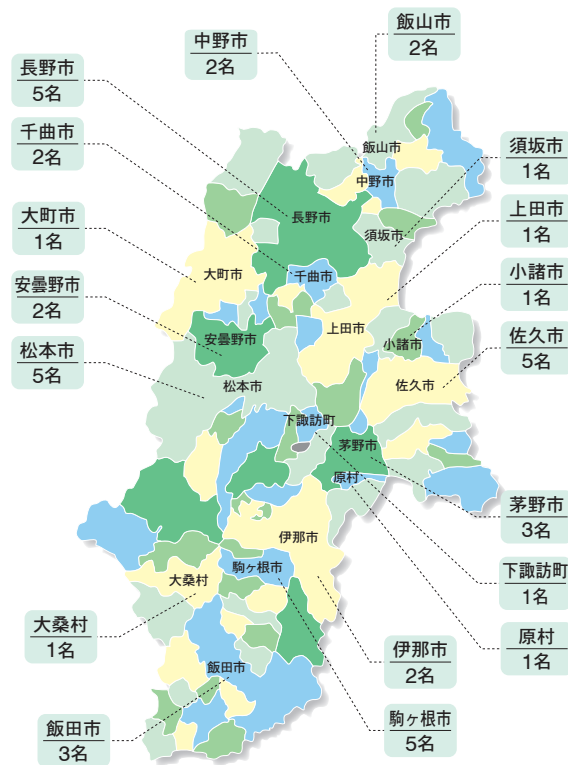
また、元協力隊員のパネルディスカッションを通して、協力隊員が現地でのどのような活動や生活をしているのかを探ります。

最後に協力隊の制度や応募方法等を説明し、グループ別相談会も実施します。

派遣中JICA海外協力隊

(2019年12月8日現在)

※各地方自治体へ表敬訪問をした人数=JICA海外協力隊の数としています。



長野県関係者 JICA海外協力隊派遣実績

2019年10月31日現在

- | | |
|----------------------------------|-----------------------------------|
| ①青年海外協力隊員
派遣中 31名
累計 1040名 | ③日系社会青年ボランティア
派遣中 2名
累計 29名 |
| ②シニア海外ボランティア
派遣中 2名
累計 82名 | ④日系社会シニアボランティア
派遣中 1名
累計 6名 |

発行 独立行政法人 国際協力機構
駒ヶ根青年海外協力隊訓練所

〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂15
TEL.0265-82-6151(代) FAX.0265-82-5336
E-mail:jicakjv@jica.go.jp
https://www.jica.go.jp/komagane/index.html

JICA駒ヶ根 facebook ページを開設!
https://www.facebook.com/jicakomagane

JICA駒ヶ根 メールマガジン
☑ 配信希望の方は jicakjv@jica.go.jp

までメールでご連絡ください!

JICA駒ヶ根では毎月1回メールマガジンを配信しています。県内の国際協力に関する動きやイベントなど、耳よりな情報をリアルタイムでお届けします。